

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年十月度 入選句（投稿総数二千四句・小中学投句数千二百五十六句）

特選

選者 相馬 みさ子

アタツクがバシツと決まる秋の空 大垣市 赤塚 結衣(小六)

とても気持ちのよい句ですね。作者は、バレーボールの選手でしょうか。「アタツクがバシツと決まる」という気持ちのよさと、「秋の空」という季語のもつ、さわやかさ、すがすがしさとが呼応し合つて、より一層、爽快感、躍動感のあふれた一句となつています。スポーツの秋、元気に運動する作者の姿が目に浮かぶようです。一瞬をとらえ、力強く生き生きとした作品です。

かまきりもいっしよに回るたらい船 福井県吉田郡伊藤 凜菜(小三)

たらい船に乗ったら、かまきりも同船しており、一緒に船下りをしたという楽しく、愉快な句ですね。季語は、「かまきり」で秋です。「いっしよに回る」から、まわりの情景や作者のかまきりへの視線を感じながらいろいろ読み手に想像させてくれます。思いがけない小さな同船者がいて「たらい船」もより楽しかったことでしょう。かまきりという小さな生き物にも心をとめる作者だからこそ、この一句が生まれたのでしょうか。

いねかりだぼくのボールよひさしぶり 大垣市 内藤 義貴(小三)

なくしたと思つていたボールが、いねかりをして出てきたのですね。作者は、「ぼくのボールよひさしぶり」とボールに話しかけており、ボールへの懐かしさ、見つけたことへの嬉しさが読み手によく伝わってきます。きつと愛着の深い、大切なボールだったのでしょうか。稲刈つて広々とした田にぼつんと現れたボール。感激の瞬間を素直に表現した作品です。

秀逸

ごへいもちやきつつかおるみそのあじ 大垣市 箕浦 宏孝(小四)

オレンジにそまりきつたよ秋の夕 大垣市 河合 美憂(小六)

おにごっこ蜻蛉といっしよに走るぼく 大垣市 黒川 祥吾(小六)

ベレーぼうかぶるどんぐりお洒落だな 大垣市 天木 心結(小二)

コスモスをもらつていわう 一等賞 大垣市 石司 淳果(小五)

もう一杯新米ほかほかおかわりだ 大垣市 糺矢 みう(小三)

どんぐりをカラフルにしてこまづくり 大垣市 松原 いっき(小三)

わたり鳥季節をつれてやってくる 大垣市 田口 礼華(小五)

くりごはんほっこりやさしい母の味 大垣市 川瀬 英理香(小五)

ぎんなんのにおいが香る授業中 大垣市 川瀬 友芽(小六)

入選

運動会おかずこうかんお楽しみ 大垣市 坂井 一步(小六)
 みんなの声天までとどけうんどう会 大垣市 三嶋 陽菜(九才)
 おじいさんもうあえないよ秋の雨 大垣市 馬淵 智伎(小六)
 コスモスはピンクあかしろかぜにゆれ 大垣市 くわばら ひな(小一)
 ぼったさんはっぱのなかでかくれんぼ 大垣市 田内 杏樹(五才)
 青空に真っ赤に燃える蔦紅葉 大垣市 梅木 翔真(小五)
 いっしゅんに夜空を光る流れ星 大垣市 堤 穂乃香(小五)
 いねのほが今年も深くおじぎする 大垣市 松崎 望来(小五)
 たももちバッタにさそわれどこまでも 大垣市 かげ山 りの(小二)
 公園が黄色にそまる大イチョウ 大垣市 武田 晴日(小六)

入選

運動会差がちまってバトンパス 大垣市 吉田 有希菜(小六)
 秋の空打席にたってホームラン 大垣市 吉田 友輝也(小六)
 にわさきにコスモスひとつあかくさく 大垣市 棚橋 万桜(小一)
 舟頭の話 楽しみ秋の川 岐阜市 後藤 友美(十二)
 みの虫さん一人ぐらしはどうですか 大垣市 富永 みき(小二)
 ダンゴムシ落葉の下でひとねむり 大垣市 高木 健匠(小五)
 あきまつりハツピのサイズかわったよ 大垣市 森本 彩乃(小二)
 わたりどりいっぱいいとんどどこへいく 大垣市 大橋 琉生(小三)
 十五夜の光差しこむぼくの部屋 大垣市 西脇 脩斗(小六)
 堤防に赤いじゅうたんひがん花 大垣市 林 真里奈(小六)

選者吟

地図のなき天空遙か鳥渡る

みさ子